



諸国瀧廻り
下野黒髪山
きりふりの滝
一巻
天保二年
大判錦絵

— 細川紙に願いを込めて —

笠間眞佐子
シヤドウ
ボックス
アート作品展

2021.
2.24 [水] - 3.12 [金]

開館時間 = 午前9時30分 ~ 午後4時30分
休館日 = 土曜日、日曜日、3月8日(月)
観覧料 = 無料 / 会場 = ギャラリー1

Open: 9:30 ~ 16:30
Closed: Saturdays, Sundays and 8th March
Admission fee: free
Place: Gallery 1

空間眞佐子《諸国瀧廻り 下野黒髪山 きりふりの滝》部分、細川紙、100×70cm、2016年制作（原画＝葛飾北斎《諸国瀧廻り 下野黒髪山 きりふりの滝》大判錦絵、天保2年（1831）、図版使用元＝『視覚の魔術師 北斎』小学館、2016年）

後援 = 東秩父村、東秩父村 和紙の里



1



2



3

1、笠間眞佐子《富嶽三十六景 神奈川沖浪裏》細川紙、100×70cm、2014年制作(原画=葛飾北斎《富嶽三十六景 神奈川沖浪裏》大判錦絵、天保2年(1831)頃、図版使用元=『視覚の魔術師 北斎』小学館、2016年) / 2、笠間眞佐子《牡丹に蝶》細川紙、100×70cm、2017年制作(原画=葛飾北斎《牡丹に蝶》大判錦絵、天保2~4年(1831~33)頃、図版使用元=アタチ版画研究所制作復刻版のコピーより) / 3、笠間眞佐子《東海道五拾三次之内 浦原夜之雪》細川紙、100×70cm、2015年制作(原画=歌川広重《東海道五拾三次之内 浦原夜之雪》大判錦絵、天保4年(1833)頃、図版使用元=『週刊日本の美をめぐるNo.17 旅へいざなう広重の五十三次』小学館、2002年)

作家在室日 いずれも 12:30~16:30
 2月24日(水)・26日(金)
 3月1日(月)・3日(水)・5日(金)・9日(火)・11日(木)・12日(金)
 ※都合により作家不在となる場合もあります。

※当館へのご来館は事前予約制となります。詳しくはHPをご覧ください。お電話にてお問合せください。(049-271-7327)
 ※新型コロナウイルス感染症の感染状況により、展覧会及びイベントに変更が出る場合もあります。予めご了承ください。

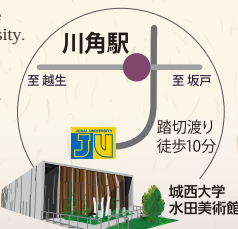
QRコードからの予約が便利です。
 ※ご来館前日の午後3時までにご予約ください。

交通のご案内 / Access



【電車の場合】
 東武東上線坂戸駅乗り換えで東武越生線川角駅下車、踏切を渡り徒歩10分
 By train: From Sakado station of the Tōbu-Tojō Line, take the Tōbu-Ogose Line and get off at Kawakado station. It is a ten minute walk to the university.

【お車の場合】
 1. 関越自動車道「鶴ヶ島 I.C.」を出て、鶴ヶ島方面に進み国道407号線を直進
 2. 「脚折町四丁目」交差点で右折し、右に「狩野動物病院」の看板がある交差点で右折
 3. 「一本松」交差点を毛呂山方面に直進
 4. 「万年橋」を渡り、「明海大学病院」の看板がある交差点を左折し直進、踏切を渡り登り坂を進むと突き当りに城西大学正門入口
 ※鶴ヶ島 I.C. より約 20 分



数字は川角駅までの最短所要時間です。
 The number indicates the shortest time required to reach Kawakado station.



埼玉県小川町在住のシャドウボックスアート作家笠間眞佐子の細川紙作品をご紹介します。
 シャドウボックスアートとは写真や絵をいくつものパーツに切り抜いてパーツごとに重ねていくことで、平面を立体世界へと変化させ、光の加減によって不思議な奥行きを持たせるクラフトアートのことをいい、17世紀頃フランスのサロンで誕生しました。

— 細川紙に願いを込めて —
笠間眞佐子
シャドウ
ボックス
アート作品展



埼玉県小川町在住のシャドウボックスアート作家笠間眞佐子の細川紙作品をご紹介します。
 シャドウボックスアートとは写真や絵をいくつものパーツに切り抜いてパーツごとに重ねていくことで、平面を立体世界へと変化させ、光の加減によって不思議な奥行きを持たせるクラフトアートのことをいい、17世紀頃フランスのサロンで誕生しました。

海を越えた日本、江戸中期の上方では、浮世絵のジャンルに立派古(または組上絵)が登場します。浮世絵版画を切り抜き、組み立てて遊ぶ子供のためのおもちゃ絵の一種で、現代のペーパークラフトにも通じています。
 細川紙(小川町、東秩父村)は、島根県浜田市の石州半紙、岐阜県美濃市の本美濃紙とともに、手漉き和紙技術が二〇一四年十一月ユネスコ無形文化遺産に登録され、その伝統技術の保存・継承が求められる埼玉の代表的な和紙です。笠間は、江戸・明治時代、商家の帳簿(大福帳等々)に使われるなど「生活のための紙」であった細川紙を、17世紀のフランス文化であったシャドウボックス作品の素材として用い、日本文化を代表する浮世絵版画を立体的に表現する試みに取り組んでいます。その根底には、細川紙が美用品の



笠間 眞佐子
 (シャドウボックスアート作家)

「生活紙」からアートの「美術紙」になって欲しいという作家の願いが込められています。
 この度の展覧会では、そうした笠間の細川紙への想いが詰まった葛飾北斎の風景画、花鳥画を中心に、平面絵画であった浮世絵が3Dとなってシャドウボックスアートへと生まれ変わった様子をご覧ください。平面とは違った浮世絵の世界をお楽しみ頂き、作品を通して、細川紙の新たな可能性も同時に感じて頂けたら幸いです。

埼玉県小川町在住。1997年シャドウボックスに出会い、2004年まで独学で制作。その後、洋紙での制作を続けていたが、2008年からは和紙を用いて制作を開始、2009年和紙による《洛中洛外図》を東秩父村「和紙の里文化フェスティバル」創作美術展に初出品する。その後、ギャラリーや、小川町立図書館、小川町和紙体験学習センターでの展示会に出品するなど制作活動を続けていく中で、郷土の和紙細川紙でのシャドウボックス制作をしようと決意。

2014年11月細川紙がユネスコ無形文化遺産に登録されると、登録記念の第一回として埼玉伝統工芸会館にて個展が開催される。以降、東京都美術館での公募展、国立新美術館でのシャドウボックスアート展に細川紙による作品を出品し入選するなど、制作活動を通して細川紙の新たな可能性の提言を行っている。